

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 北小倉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率とほぼ同程度でしたが、昨年度より上昇しています。 ・「書く能力」「読む能力」について、全国平均正答率と比べてやや上回っており、基礎・基本が定着してきています。 ・「言語についての知識・理解・技能」について課題があり書く活動の中で漢字を使う等漢字の活用を図る必要があります。
	よくできた問題	・物語を書く時の構成の工夫を説明したり、心に残った理由を示して説明したりする問題がよくできていました。
	努力が必要な問題	・文の中で漢字を使う問題は無回答率が高かったため、今後対策が必要です。
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや上回っています。 ・「話す・聞く能力」「書く能力」について、全国平均正答率と比べて正答率が高く、話し合い活動や書く活動が定着してきています。「読む能力」の正答率が全国とほぼ同程度でした。
	よくできた問題	・分かったことを取り入れて書く問題や、自分と同じ意見を選び自分の考えを書く問題がよくできていました。
	努力が必要な問題	・最も心がひかれた一文とその理由を文に表す問題の無回答率がやや高く、条件に合わせて書く力が必要です。
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていますが、昨年度より上昇しています。 ・「量と測定」「数量関係」について課題があり、割合の求め方やグラフの見方について習熟を図り、基礎学力を定着させる必要があります。
	よくできた問題	・円周率を求める式を選ぶ問題や、単位量当たりを使って針金の重さを計算する問題がよくできていました。
	努力が必要な問題	・割合の問題、示された2つの事柄に当てはまるグラフを選ぶ問題の正答率が低かったです。
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていますが、正答率は昨年度より上昇しています。 ・「数と計算」「量と測定」について課題があり、他教科との関連を図り、グラフや表を活用しながら説明する経験を増やす必要があります。
	よくできた問題	・模様の中から図形を見つけ出す問題、分配の法則を用いて式に表し説明する問題では、正答率が多かった。
	努力が必要な問題	・グラフから読み取ったことを書く問題、表に整理して時間を求める問題ができていませんでした。
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや上回っています。 ・「生命」について正答率が高く、「物質」「エネルギー」「地球」については、全国平均正答率とほぼ同程度でした。今後も実験を通して論理的に考える活動を十分にとる必要があります。
	よくできた問題	・異なる実験方法から得られた結果を基に判断する問題、人体のしくみについての問題がよくできていました。
	努力が必要な問題	・実験を通して結論を導き出したことを書く問題、光電池で目的の時間だけモーターを回す問題ができていませんでした。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○ 自分にはよいところがある、先生がよいところを認めてくれると回答した児童が全国平均を上回っており、児童の自尊感情や自己有用感を高めることに繋がっています。朝食を毎日食べていると回答した児童は、昨年度より増えていますが、全国平均よりやや少ない傾向です。家で自分で計画を立てて勉強している、家で学校の宿題をしていると回答した児童が福岡県の平均をやや下回っています。基本的な生活習慣や学習習慣を整えられるよう家庭と学校が連携する取組をさらに進めます。</p> <p>○ 学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている、と回答した児童が全国平均をやや上回っています。これは本校が進めている1時間の授業の中でペア・グループ学習や全体で話し合う場を設定し、話し合いによる表現活動の充実を図ってきた成果だと思われます。算数科や理科では、勉強が大切だと回答した児童が全国平均を上回っているものの、勉強が好きであると回答した児童は全国平均をやや下回っています。児童は勉強の重要性を感じているので、勉強が好きになる取組が必要です。児童の関心を高められるような授業を今後も行っていきます。</p> <p>○ 1時間以上読書をしていると回答した児童が全国平均を大きく上回り、学校や家庭での取組が浸透してきているようです。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>○ 朝学習で視写を取り入れることで文章の書き方に慣れさせる、1時間の授業の中に自分の考えを書くことを必ず位置付ける、自分の考えがもてるような発問の工夫をするなど、引き続き授業改善を図っていきます。</p> <p>○ 新聞づくり等、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わる文章を書く活動を設定していきます。</p>
--

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○ 基礎基本を定着させるために、宿題の出し方を工夫するとともに、「北小倉小学校家庭学習の手引き」「学校だより」「学年だより」等で家庭学習の在り方を知らせ、家庭学習を少しでも改善できるようにしていきます。</p> <p>○ 自主学習ノートに各学級で取り組み、家庭学習マイスター賞を設けて、児童の家庭学習に対する意欲を喚起していきます。</p>
---